

## Book Review

### 「初めて学ぶ建築実務テキスト 建築施工図」刊行によせて

・・・中澤 明夫



大学、専門学校などの教育現場から、建築実務に直結した科目に対する教科書を求める声が多く聞かれます。そうした声に応えようと、市ヶ谷出版社で「初めて学ぶ 建築実務テキスト」シリーズが企画され、建築施工図を担当し、このたび上梓しました。

既に、主に建築現場での施工技術者を対象として、建築

施工図の作成方法や読み方を解説した図書を、同社から刊行していました。今回は、初めて建築を学ぶ人が、建築施工図の概要を理解し、具体的な施工図の描き方を修得するための学習書です。

建築施工図は、従来、元請会社の社員が作成していましたが、この施工図作成の仕事の内容が複雑化、かつ高度化するにつれて専門化が進み、作成業務が施工現場での作業から分離されて専門職によるものとなっています。そうした

現状を踏まえて、施工図の作成手順を中心に、作成する上での決まりごとや約束ごと、留意点を説明し、学習がより容易に、かつ効率よく、より早く進むようにと配慮してあります。具体的には、

- ① 説明図を多用し、図を中心とした説明とする。
- ② 一般的な決まりごとなどの説明をしたうえで、モデル建物を設定して、より実務に密接した説明をする。
- ③ 自学自習の人にも役立つように、作成手順を分解した逐一説明をする。
- ④ 原寸の完成図を巻末に袋入れて添付し、例示する。

などです。

本書によって建築施工図の役割を理解し、その作成手順と要点を修得した上で、専門職としての職能を身につけた多くの若手技術者が生まれることを期待しています。

■監修／大野隆司

共著／中澤明夫・安藤俊建・佐々木晴英・秦邦晃

■発行元／市ヶ谷出版社

■A 4版 107頁, 3,000円+税

### 最近読んだ本・・・伊藤 誠三



■二十一世紀は江戸に学べ  
池田武邦 著

日本設計が山下寿郎設計事務所より分離独立した時のリーダー、池田武邦氏の回顧録である。最先端の概念を取り入れ、建築学会賞を得た超高層新宿三井ビルで執務中、冬の或る日、帰宅で外に出るまで雪が降っているのに気が付かなかったこと

に、「人間が自然の一部であることを忘れていたのではないかと、設計の基本が間違っていた」と自覚し、「自然に対する畏れを忘れるな」と心構えを更新し、オランダ村からハウステンボス設計に至る環境への模索が説かれる。新組織生成の理念のもと、旧組織 200 名の社員のうち、106 名が麾下に参加したという明快なリーダーシップが示されるが、その厳しく強い姿勢の背骨に、海軍兵学校出身で、

戦艦矢矧に乗艦し、マリアナ沖海戦、レイテ沖海戦、沖縄海上特攻作戦に参戦、最後は矢矧の撃沈で海上を漂流、奇跡的に生還したという壮烈な体験がもたらした死生観がある。死を覚悟した境地を経て、21 歳にして、後は余生と自得したという、その詳細は氏への長期に亘るインタビューの成果による井川聡著の『軍艦「矢矧」海戦記』に詳しい。

ハウステンボス以降、あちこちの地方から依頼をうけ、池田塾として今なお活躍中であるが、村民と共に環境への対応を研究する中で生まれた成果の一つとして、村の中に今なお息づく江戸文化を再認識する過程がつぶさに描かれている。「次世代へ伝承するために」と締めくくられたこれら終章の目指すものは当会の基本概念とも重なり、大きな力を与えてくれる内容となっている。なお、石原慎太郎前都知事の帯文がある。氏は今年、米寿を迎えられ、日本設計OB有志でお祝いた。

■発行元／A&A パブリッシング

■単行本 294 頁, 1,800 円+税